

の　　ご　　あ　　い　　さ　　つ



上島町長
上村 俊之

上島町の皆様、あけましておめでとうございます。

輝かしい新年の始まり。炬燵の上に明るいミカン、目の前に焼きたてのお餅。懐かしい顔を囲み、最上の幸せ溢れる「心豊かな ふるさと上島町」を満喫されているものと拝察いたします。

私が上島町から離れていた学生時代「戻っておいでよ この町に 都会の暮らしに疲れたらあいかわらずの田舎町 それでもお前の故郷だろ」という歌が流行りました。上島町も相変わらずの田舎町で、都会のような娯楽施設や華やかさはありませんが、我が町には都会で失われた本当の豊かさがあります。

昨年から「ふるさと納税」という制度が始まり、上島町も多くの皆様からご寄付をいただきました。「ふるさと上島町」のために、力強い励ましと温かい気持ちを届けてくれた皆さんに、この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。今後、上島町に暮らす私達が成すべきことは、寄付集めに躍起になることではなく、その気持ちに応えるべく「戻っておいでよ この町に」と自信を持って言える上島町を創り上げていく事ではないでしょうか。

昨年を顧みますと、生名中学校と弓削中学校の統合。村上幸史選手の北京オリンピック出場。

弓削高校創立60周年。上島町情報通信基盤整備事業の着手など記念すべき年でありました。

また、11月には町議会議員及び町長選挙があり、町民の皆様を代表して第二期上島町行政を運営する新たな組織が動き始めました。

新年が行政の継続性という本質を見失うことなく、新しい芽吹き之年となることを願っているのは、1票の権利を投じた町民皆様であり、私達代表者はその義務を果たさなければなりません。

合併後の一期4年間は旧4町村における行政上の調整事項が数多く、現実論として条件の異なる事案を紐解くため、過去に遡らなければならないこともありました。

しかし、第二期上島町は「今までは、魚島村はこんな方法だった。生名村ではこの条件だった。岩城村では前例がなかった。弓削町には関連がなかった。等々」、後ろ向きの議論を繰り返すのではなく、「今後、上島町はどうあるべきか。上島町にふさわしい新たな制度は何か」を前向きに協議提案すべきです。

もちろん、その原動力は上島町民一人ひとりにあります。

上島町民のポテンシャル、自立・奉仕・元気の力は愛媛県下どの市町にも負けてはいません。むしろ先人から引き継いだ文化と伝統に育まれ、進取の気性として秀でていきます。私は、この上島町民の実力を引き出し支えること、自分の足で立ち上がれる仕掛けをつくること、町民がまちづくりを主導できる地域自治の施策を打ち出すことが今後の上島町行政の重要な仕事であると考えています。

昨年の広報新年号で、『上島町行政運営においても、「よく見る よく聞く よく話す」を

行動指針として今後も真面目に取り組むことはもちろんですが、寝ている良い遺伝子のスイッチをオンにしてたくさん働いてもらえるよう、町民の皆様が心から「笑い」「感動」する行事も盛り込み、経済と財政、文化と伝統が調和した「プライド・オブ・プレイス」ここに住んでよかったという地域に対する誇りを育てたいと考えています。』とお伝えしましたが、皆さんは昨年1年間で「笑い・感動する」行事に出会い、参加していただけたでしょうか。新年においても上島町職員は行政のプロとして真剣に仕事に取り組みと共に、「夢・愛・楽・笑」を町民の皆様を感じていただける施策にも取り組んでまいります。

私は、上島町を守り発展させる為に、最新で正確な各種情報の収集とその分析により、町民の皆様の声を反映した正しい行動を堅持してまいります。そして、「一世の知勇を推倒し、万古の心胸を開拓する」という言葉があるように、町長として志を持つ以上、一つの時代、自分の評価のみに気を配るのではなく、一個の事功によって万世の後の人の心を耕しつづけてゆくことに心を配りたいと考えています。

上島町民の皆さん、本年も健康に留意され、「明るく・楽しく」元氣を出して頑張りましょう。

上島町長 上村 俊之

平成21年 新年



上島町議会議長
土居 計彦

上島町の皆様、新年明けましておめでとうございます。

ご家族お揃いで、希望に満ちた新しい年をお迎えになられたことと存じます。

本年も上島町議会の議員活動等に対し、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私達のみならず「上島町」は合併して4年が経ちました。昨年11月には、任期満了により選挙が実施され、町長、町議会議員が住民の信託を受け新しい体制がスタートいたしました。

新しい議会は、議会内の融和を図り、町民のためにあるのだということを改めて確認し、皆様から信頼されるような議会を目指して参ります。

さて、今や世界は「百年に一度」といわれる金融危機のため、実体経済の悪化により操業の縮小など、企業の経営悪化は雇用にも、そして、地域経済にも大きく影響を与えています。

お蔭様で上島町や周辺市町の企業は造船好況に支えられ、且つ経営努力により雇用を確保して頂いておりますことに對しまして敬意を表したいと思います。

この困難な状況の下、国も真剣に景気対策を実施する一方、地方交付税の増額も視野に入れているようですが、一連の景気対策が景気の下支えになってくれることを期待したいと思います。

す。

そんな中、昨年は上島町にとって、とても嬉しいことがありました。生名出身の村上幸史選手が北京オリンピック陸上男子槍投げに日本代表に選ばれ活躍されたことです。

上島町民として、とても誇らしく、嬉しいニュースでした。このことは将来を担う若人の希望や意欲につながり、上島町の活力源となります。

更に、毎日部活に頑張っている小中高や高専の児童・生徒・学生の皆さんの励みや目標になってくれるものと期待しています。

ところで、平成の大合併の方向性として、国で検討されている「道州制」の施行が現実味をおび、更なる合併が進むこととなれば、上島町としての福祉施設などの社会資本整備としての増設や新設は難しくなります。

上島町として、将来必ず必要になってくるものは、この10年ぐらいの間に、計画的に行財政の積極的な投資を実施することが重要事項となります。

先日参加いたしました「新過疎法制定全国決起大会」においても「田舎を大事にしないと国は滅びる」との地方からの声が大きく激しい「うねり」となって押し寄せており、この意味からも上島町が一体となって中央に対して情報を発信し、存在感を示さなければなりません。

今後、ますます先見性を発揮して明るい将来展望を目指せる町づくりでなくてはなりません。

このことから、上島町としては、まだまだ充分とはいえない四島の一体感づくりに知恵を絞りがつちりとした心の架け橋を一日も早く完成させることが必要不可欠となります。

新しい年は、活力と夢を生む上島町四島の住

民の心と体の交流がますます活発になりますよう祈念して、新年のごあいさつとさせて頂きます。
四島一丸となって「みんなで心に橋」をかけましょう。

上島町議会議長 土居 計彦

海と緑と太陽と 笑顔でつながる上島町